

# 国立公園にみる生物多様性の危機 地球温暖化による危機

## 地球温暖化は、動植物の絶滅のリスクを高めます。

地球温暖化による生物多様性への影響も深刻です。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の第4次評価報告書 (2007) によると、地球全体の平均気温が1.5~2.5℃以上あがると、約20~30%の動植物の絶滅のリスクが高まると予測されています。

中部山岳国立公園では、寒冷な環境に適応した動植物で、氷河期からの生き残りといわれるものも多く、地球温暖化の影響を大きく受ける可能性があります。また、白山国立公園に分布するクロユリやハクサンコザクラ等の雪田植生の生育適地が2070年代になくなるとの予測がされています (石川県白山自然保護センター2002年発表)。みなさん一人一人の温暖化対策が貴重な動植物の保護につながります。

### 早春のライチョウ



ライチョウは氷河期の生き残りといわれています。

### コマクサ



高山植物の女王と称されるコマクサも氷河期の生き残りといわれ、日本アルプスなどの高山域の一部にのみ生育しています。

## 中部山岳国立公園



穂高連峰の秋はナナカマドなどの植物により鮮やかに彩られます。

指定日:1934年(昭和9年)12月

面積:174,323ha

関係県:新潟県、富山県、長野県、岐阜県

中部山岳国立公園は、北から後立山連峰、立山連峰、穂高連峰など標高3,000m級の山々で構成される日本を代表する山岳公園で、ハイマツ帯や高山植物、ライチョウなど高山特有の生物が生育・生息しています。

